保護司の一言

歌で心身のリフレッシュ

保護司　名塚　美幸（ユキ）

歌は3分間のドラマで歌うよりも「演じる事」であると聞いたことがあります。なるほどなと思いました。歌詞を見たり、歌を聞いた時にその情景を想像し感動したことはないでしょうか。歌詞に共感したり、慰め、励ましなど勇気づけられ、心身ともスッキリした気分になれる場面も時にはあります。

私も学生の頃から歌謡曲は好きで、レコード盤やCDなど買い求めました。青春時代に繰り返し聞いた曲は生涯心に残るといわれています。懐かしさを感じる曲は喜び、幸せ、満足、リラックスなどポジティブな感情を呼び起こしやすいと言われています。まさにストレスの解消に繋がるそうです。

以前、あるテレビで放送された中に、日本を勇気づける名曲が紹介され、第1位は坂本九の「上を向いて歩こう」、第2位はSMAPの「世界に一つだけの花」、第3位は美空ひばりの「川の流れのように」とのこと。このような昭和歌謡曲を聴くことと、日本画家であった父の遺作絵を見ることが、今の私の楽しみです。

最近は昔に比べテレビの歌謡番組が少なく大変残念ですが、BSで放送中の「人生歌がある」「BS日本の歌」「昭和歌謡ベストテンDX」は欠かさず見ています。それに今はユーチューブという便利なツールがあるので、つい見入ってしまいます。

昭和歌謡とは人情味と古臭さを感じ、つい自分は昭和の人間なんだなと思うこの頃です。

コロナ禍において全国的に様々な活動が制約されている中、歌を聞いてリフレッシュしています。

「愛の協力会員募集の御礼」とお願い

明けましておめでとうございます。

平素より、各地域の皆様には「愛の協力運動」にご理解ご協力と、多大なるご支援をいただいておりますことに、厚く感謝と御礼を申し上げます。「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。柏崎刈羽地区においても、皆様のご理解とご協力を得ながら、犯罪の無い安全安心な地域社会を目指して本運動に取り組んでいます。「罪を憎み人を憎まず」犯罪や非行を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせて活動を続けて行かなければなりません。

明るい社会に向かって、一層のご理解とご協力ご支援をお願い申し上げます。

令和3年度 各種表彰者

瑞宝双光章 …… 内山　知英

全国保護司連盟理事長表彰 …… 永寶　和彦

関東地方更生保護委員会委員長表彰
…… 大塚　登、栗林　文英
宮澤　順亮

関東地方保護司連盟会長表彰
…… 石塚　道宏、森　高志

新潟保護観察所長表彰 …… 神林　均、田村　真
佐々木惠一郎

新潟県保護司会連合会長表彰 …… 桑原　博

全国保護司連盟理事長家族功労 …… 尾崎みちよ

保護司の異動

ごくろうさまでした

退任　熊丸政二（荒浜）

よろしくお願いします

新任　名塚美幸（刈羽村）

愛の協力運動　会員のページ

一人ひとりが主役の村づくり

前矢田町内会長　黒金道雄

高齢化、買い物難民、限界集落等、地方の衰退する現状を表す言葉が飛び交い始めて久しい。私の住む中通地区も例外でなく、平素の会話にも半ば諦めに似た言葉が多く聞かれた。

それでも矢田集落では十数年前から営農組合を立ち上げ、米だけに頼らずにマコモタケや枝豆などの園芸作物を栽培したり、農地を農地中間管理機構に集積して担い手に貸し出し農業経営の大規模化を進めたりと、農業振興による集落の活性化に努めてきた。

更に改正土地改良法が施行されるや、大規模機械化農業に適し且つ園芸作物と米作の切り替えが容易にできる圃場（ほじょう）（水田）整備を目指して圃場整備推進委員会を立ち上げ、将来の夢を語り合った。

こうした折、柏崎リーダー塾の皆さんや市役所から、地域活性化のために都会から若者を呼び込む事業（地域おこし協力隊事業）の話を頂いた。真に、集落の更なる発展へのチャンス到来であった。また、男性中心の集落運営から脱皮するチャンスでもあった。

2021年　熊野神社の秋祭り（柏崎日報社提供）

▶2019年
インターンシップ
報告会

◀2021年
町内忘年会

早速、圃場整備推進委員会を母体に、若者や女性、先輩層からも加わって頂き、目指す集落像やどんな人材をどのように招き何をしてもらうのか等について、週一ペースで勉強会や協議を重ねた。

平成三十一年から市ホームページで募集開始。同年夏には大学生の体験移住「インターンシップ」にも取り組んだ。「よそ者」を受け入れる経験に乏しい私達には貴重な経験となった。受け入れに係わる協力体制の構築、若者の参加の促進、女性の活躍の場の確保等、列挙しきれない程の財産を得た。インターン生と今も続く温かい交流関係は何物にも替え難い。

同年十二月に二人目の協力隊員（男性）を愛知県から迎え、翌年九月には二人目（女性）を東京都から迎えることができた。いずれも集落内の空き住宅に住んで頂き、男性隊員には農業振興による村おこし、女性隊員には空き店舗を活用したサークル活動や学習会、お楽しみ会等の交流推進の面からの村おこしに力を貸してもらっている。

また、協力隊員二名という恵まれた環境を作って頂いたお蔭で、二人の連携による取り組みが生まれ大きな成果を挙げている。例えば、祭りの神楽、夏の納涼会、クリスマスツリー作りなど、若い衆から年輩者までのみんなで創り上げる行事を企画・運営し、コロナ禍中とは思えない程、一人ひとりが充実感を持てる活動に育ててもらっている。更には、折り紙サークル活動や地域サポート農業、コツコツ貯筋体操などへの参加により住民との繋がりを確かなものにすると同時に、住民同士の交流にも広がりや深まりの変化が生まれてきている。

更には、二人の特技を生かしたパソコンやスマホの住民向けお助け教室を開いたり、新型コロナワクチン接種申込の手助けをしたりと、住民個々の困りごとにまで応えてもらっている。

先日、集落役員と住民の合同忘年会があった。会場に足を踏み入れた瞬間、うれしさが込み上げてきた。出席者約五十名の四割が子供を含む青年層の人たちだったからだ。更に女性の方々が受付やら司会やら宴の段取りやら、それぞれが自分の持ち場ではつらつと活動している姿が目に入ってきた。心に描いていた集落像に一歩近付いた感がした。

地域おこし協力隊員の活躍と関係機関のご支援に心から感謝するとともに、集落づくりは一人ひとりが主役であることを経験を通して学んだ私たちは、この歩みを止めることなく次の一歩を踏み出したい。